

# 心豊かな世代が育つ

## 童話の里づくり 401

### ―シリーズ― あなたの人権・わたしの人権

#### 「つながる心」

森中央小学校4年

丸山 小晴

「共生の里メルヘンの方達と交流するよ。」

と、先生が言いました。

わたしは何だかドキドキしました。メルヘンには、おじいちゃんおばあちゃんがいるということは知っていました。おじいちゃんおばあちゃんがいることは知っていたけど、そこに私達が行って、いやがられないかななど思ったからです。

交流の前に見学に行きました。話しかけてくれるおばあちゃんがいて、やっぱりえがおで元気だなあと思いました。でも元気がない感じの方もいました。

その日は、施設の中を見学させてもらいました。利用者さんがこまったりしないよう、バリアフリーなど工夫が

たくさんありました。

スタッフの人達に質問をする時間もありました。

「利用者さんがどんな声をかけられたらうれしいかなとか、どうしたらうれしいかなとか考えながらせっせしています。」

と、教えてくれました。

私はなるほどと思って、今度自分たちが利用者さんと交流する時は、そんな思いやりをもってせっせしてみようと思いました。

見学が終わって、交流のじゅんびを始めました。

利用者さんたちは、歌が大すきだと聞いていたので、歌はすぐに決まりました。何を歌うかという話し合いの時に、友達が「ふるさと」を歌うのがいいと言い、私もそう思いました。利用者さんが知っている昔からある歌がいいと思ったからです。

その他には、「かたたたき」をする

ことになりました。スタッフの人が、「体にやさしくふれると安心します。」と、教えてくれたからです。

もっと安心してもらえるように「かたたたきの歌」の歌詞を少し変えて、歌いながらたいてあげることにしました。

みんなでやさしい「かたたたき」の練習をしました。私は、利用者さんに「かたたたき」をする時のことを想像して、よろこんでくれるといいなあと思って練習しました。

いよいよ交流の日になりました。

私達が歌い始めると、利用者さんはゆっくりだけ手びょうしをしてくれたり、いっしょに歌ったりしてくれました。

「ふるさと」を歌った時には、泣く人もいました。「今日は、今まで一番いい日になりました。」となみだを流してくれました。

反のうは無いかもと聞いていたので、びっくりしました。スタッフさんもびっくりしていたし、いっしょに泣いていました。

この交流の中で、私はどんな人とも相手のことをいっしょけん命考えれば、気持ち伝わるということを知りました。

交流の次の日、私は利用者さんの人数分の「おりづる」をおつてとどけました。

「おりづる」で、利用者さんと心と心でつながれた様な気がしました。

みんなが知っている歌「ふるさと」を選んだり、やさしい「かたたたき」の練習をしたりと、相手のことを思いやる小晴さんたち中央小4年生のみなさんの温かい気持ちが伝わりますね。

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。

また、みなさんの投稿もお待ちしております。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを一、二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して（匿名可）、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届けください。

